

事業名：平成17・18年度教育課程の実施状況に関する 自己点検・自己評価に係る研究指定校事業
学校名：大崎上島町立大崎中学校
所在地：豊田郡大崎上島町中野5603
HP：http://www.town.osakikamijima.hiroshima.jp/osaki-jh/
対象：3学級 88名

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

①研究テーマ

生徒の自己効力感・学習意欲を高める指導方法改善
 ー教育課程実施状況に関する自己点検・自己評価を通してー

②研究のねらい

ア ねらい

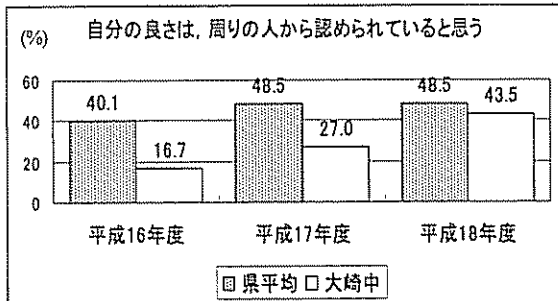
大崎中学校学校評価システムを効果的に運用して、教育課程実施状況に関する自己点検・自己評価を実施し、生徒の自己効力感・学習意欲を高め、学力の向上を図る。

イ 生徒の実態と課題

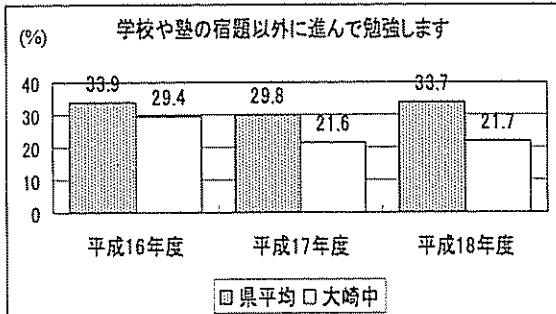
・実態

毎年度実施する「基礎・基本」定着状況調査によると、自己効力感に関する質問項目「自分の良さは、周りの人から認められていると思う」と生徒の学習意欲に関する質問項目「学校や塾の宿題以外に進んで勉強します」が県平均を下回っている。

自己効力感に関する調査結果 (2年生)



学習意欲に関する調査結果 (2年生)



また、教科の平均通過率は、国語・数学・英語とも県平均を上回っている (国語+7.4, 数学+2.2, 英語+1.8) が、教科の学習に関する調査では、相手に自分の考えや気持ちなどを伝えようとする態度が県平均に比べて低い。

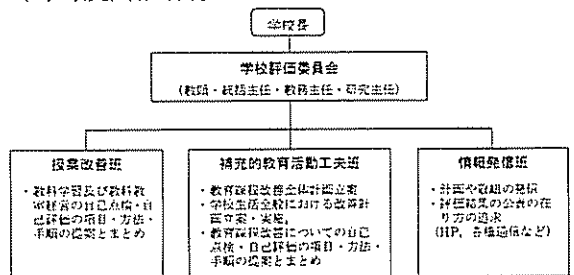
「基礎・基本」定着状況調査の各教科の学習に関する調査結果 (H18年6月 2年生)

国語 (話をするとき、最も伝えたい中心をどこで言うと分かりやすいか考えながら話をしています)	県平均 37.1 大崎中 26.1
数学 (理由をあげて自分の考え方や解き方を説明しています)	県平均 33.6 大崎中 30.4
英語 (英語で文章を書くときは、自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書いています)	県平均 51.3 大崎中 21.7

・課題

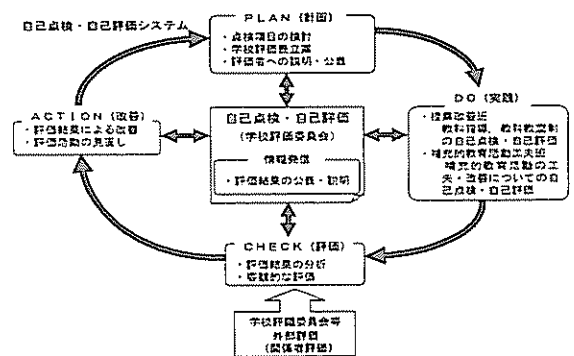
- (ア) 自己効力感が低く、自分に自信が持てていない。
- (イ) ねらいを持って主体的に学習する態度が育っていない。
- (ウ) 自分の意見を明確にし、それを効果的に相手に伝える力が育っていない。

(2) 研究組織・体制



(3) 研究内容

①本校の自己点検・自己評価システムは次のとおりである。



②評価項目

ア 授業改善

- ・教師相互による授業評価
- ・授業改善に係る研究協議会の充実
- ・生徒による授業評価
- ・教師自身による授業評価
- ・メタ認知能力を高める取組み

イ 補充的教育活動の工夫

- ・水曜マイタイム (水曜日第6校時を生徒の主体的な学習の場とする)
- ・長期休業中の学力補充の工夫
- ・定期テスト期間中の質問教室

ウ 学習環境の整備

- ・教科教室制
- ・グループ編成の整席

エ 情報発信

- ・学級便りをはじめ、各種通信の内容の充実
- ・学級懇談会・学校説明会の開催
- ・定期的なHPの更新

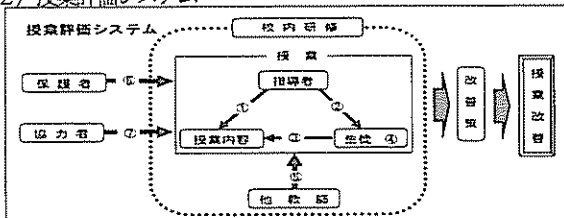
2 授業改善の視点

(1) 授業改善の項目

- ①ねらいの明確化
- ②学習形態の工夫
- ③学習のまとめ
- ④振り返り (自己質問カードの活用)

	授業改善の項目	大崎中授業改善の視点
導入	課題の提示	教師のねらいの明確化 (学習指導要領) 生徒のねらいの明確化 (子どもの言葉で)
展開	・活動の手立ての工夫 ・ねらいを明確にした活動の設定 ・学習形態の工夫	考えさせるための支援 ・発問の構造化 ・表現する中身を持たせる ・表現の技術を習得させる 学習形態の工夫 ・個の活動 (自分の考えや意見を持たせる) ・小集団や全体での活動 (自分の考えを深める)
まとめ	ねらいに沿ったまとめ	教師がまとめ、提示する 生徒がまとめる (書く・発表する) ワークシートの活用
	生徒の振り返り	自己評価 自己質問カードの活用

(2) 授業評価システム



3 研究の成果と課題等

(1) 成果

①教育課程実施状況に関する自己点検・自己評価システムを構築し運用することによって、指導法の改善に向けて学校体制で取り組むことができた。そのことにより、生徒の自己効力感と表現意欲を高めることができた。

(全学年)

自分の良さは、周りの人から認められていると思う	44.0% (6月) 47.7% (11月) ↑
-------------------------	-----------------------------

(全学年)

国語 (話をするとき、最も伝えたい中心をどこで言うと分かりやすいか考えながら話をしています)	34.5% (6月) 54.1% (11月) ↑
数学 (理由をあげて自分の考え方や解き方を説明しています)	27.4% (6月) 43.5% (11月) ↑
英語 (英語で文章を書くときは、自分の考えや気持ちなどが正確に手紙に正しく伝わるように書いています)	36.9% (6月) 71.8% (11月) ↑

②「問い→探究→表現」の全教科統一した授業形態を採用し、生徒の要求から学習単元を選択した水曜マイタイムは、生徒の主体的な学びの場として定着してきた。

水曜マイタイムのグループ学習まやる気が出る (平成18年11月)	第1学年 77.0% 第2学年 82.6% 第3学年 78.4%
----------------------------------	--

③年度当初教科教室経営にあたり、その「ねらい」及び「具体的取組み」を明確にすることで、教師の意識が向上し、掲示物に対する生徒の肯定的評価も高い。

(全教科合計)

教科教室に掲示物が充実している	87.9% (7月) 96.5% (11月) ↑
-----------------	-----------------------------

④学校の様子を、校長室だより、学年通信、ホームページなどを活用し積極的に発信することにより、保護者の情報発信にかかわる肯定的評価が向上した。

(保護者による評価)

中学校は学校や生徒の様子を週刊に伝えている。	平成17年度 (3月) 62.1% 平成18年度 (7月) 72.3% ↑
------------------------	--

(2) 課題

①補充的教育活動の工夫により、学校での学習意欲は高まったが、それが自主的な家庭学習にまで至っていない。

(全学年)

学校や塾の宿題以外に進んで勉強しています	38.1% (6月) 32.6% (11月) ↓
----------------------	-----------------------------

②各教師の思いの中での教科教室経営であるため、大崎中学校として、一貫した教室経営になっていない。

(3) 今後の改善方策

- ①自己効力感や成功経験を持たせ学習意欲を高める取組みの1つとして、教育相談を充実させ、個々の生徒が自分に合った課題を選び家庭学習ができるようにする。
- ②学校評価委員会で各教科の教室経営に関わる共通する目的を策定する。

4 実証事例

(1) 第1学年 社会科 歴史的分野

(2) 単元の紹介

- ① 単元名 「京都の都と摂関政治」
- ② 単元の目標 (以下、改善に関わる部分のみ抜粋)
・資料をもとに平安時代、藤原氏の政治について説明できる。
- ③ 単元の評価規準
・藤原氏の系図などを活用して摂関政治の展開をとらえることができる。

(3) 今までの授業評価で明らかになった課題 (改善点)

- ①思考を深める場の設定
- ②学習意欲を高める発問の工夫

(4) 授業改善のポイント

- ①思考を深める活動場面の設定
→前時の復習として、奈良時代の社会的事象を短冊で用意し、並び替えを2人組で行わせ、その後、全体にどうしてそう並べたか筋道を立てて説明させる。
- ②学習意欲を高める発問の工夫
→今単元の登場人物 (桓武天皇・藤原道長等) の視点から、生徒に投げかける形でパワーポイントを活用し提示する。

(5) 成果と課題

①思考を深めさせる場として、小集団で自分の意見を出し合わせながら課題解決をさせるという場を設定することで、グループ内で活発な意見交流ができた。

(他教師による授業評価)

生徒の主体的活動を呼び込む学習形態の工夫	2.75P (1学期) 3.00P (11月30日) ↑
----------------------	---------------------------------

②生徒の学習意欲を高めるためには、もっと構造化された発問を組み立てる必要がある。

(他教師による授業評価)

知的好奇心をかき立てる授業の創造 (学習課題・発問の構造化)	2.80P (1学期) 2.83P (11月30日) →
--------------------------------	---------------------------------